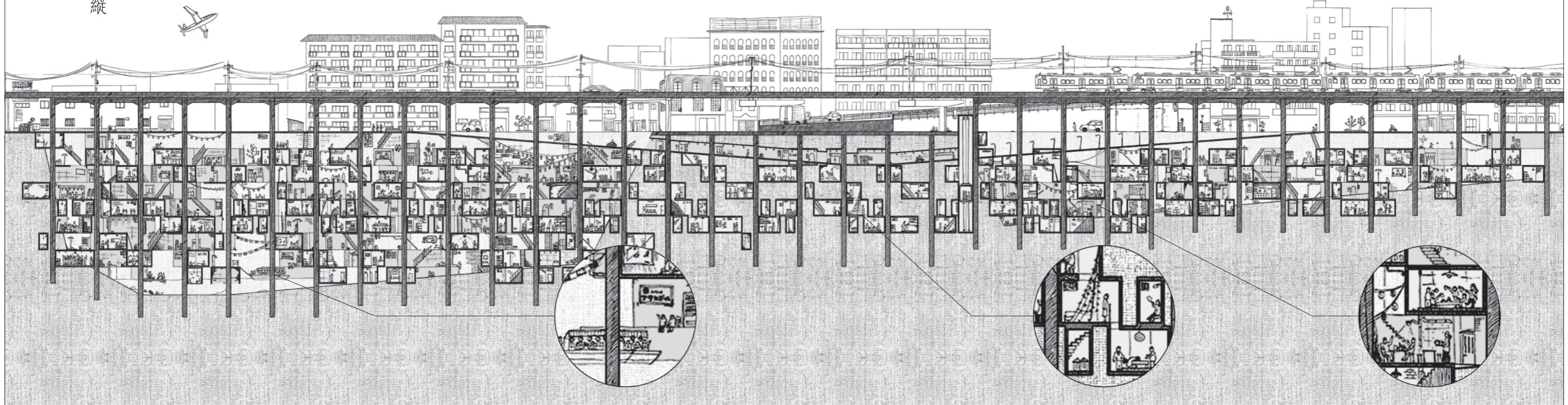
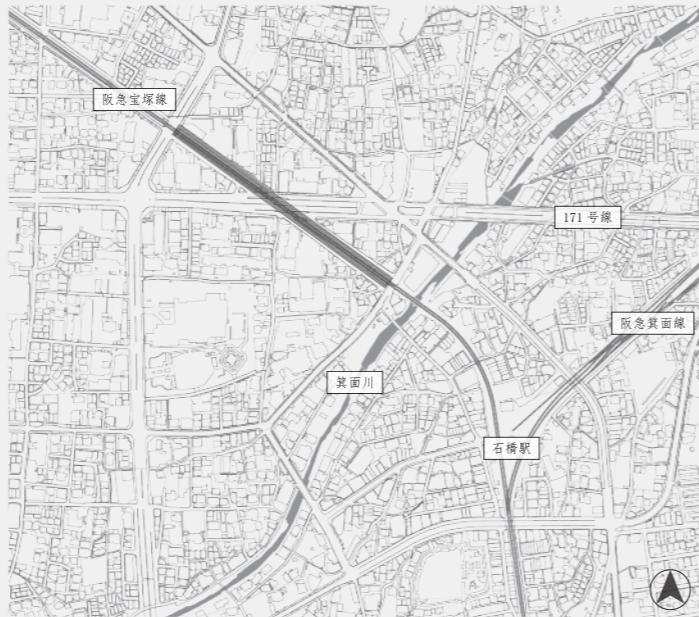


# 石橋横丁 ~高架下再活用の提案~



## - SITE -

敷地は大阪、阪急石橋駅近くの高架下。駐車場や店舗としての利用が可能だが、その多くが現在は使われていない。踏切撤去による交通渋滞の緩和や駅付近の再開発を期待され、各地で次々に行われている高速道路や線路の高架化。しかし、その敷地の狭さ・日当たりの悪さ・騒音などの問題で、利用されていない空間が多い。

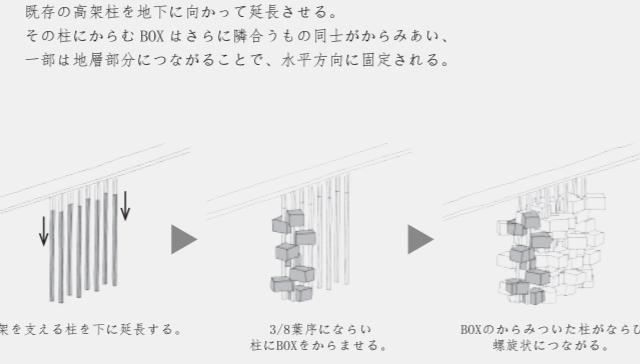


## - CONCEPT -

一般的な商店街は、道沿いの面に店の顔を持つ。そのため、看板や広告は横方向に並ぶ。しかし高架下という限られた敷地面積の中では、一般的な商店街のように道の両側に店をかまえることは難しい。限られた敷地を最大限活用するためには、店は地下に向かって縦に連なる。屋根面に張られた看板が縦に並ぶ光景は新しい町並みを形成する。



## - DIAGRAM -

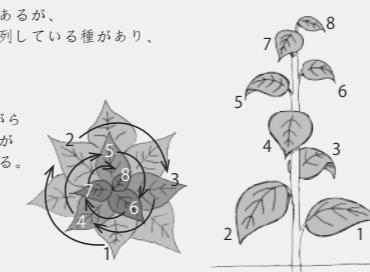


## - SYSTEM -

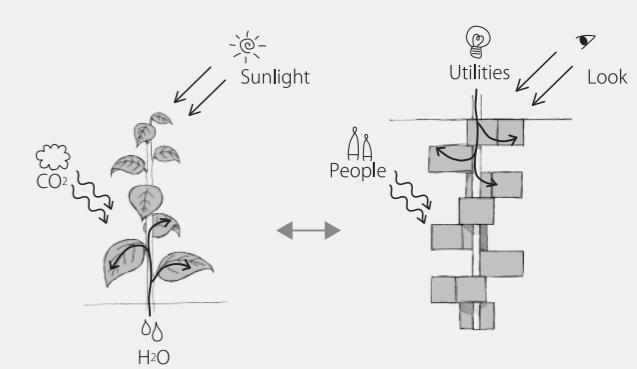
光合成で成長する植物は、より多くの葉が日光にあたるように、もっとも効率のよい方法で葉をつける。

店舗を縦に連ねていく時、ビルのようにただ階を積層させてしまうと、下のほうの店舗はお客さんの目に触れない。地下深くに位置する店舗まで光、風、そして視線が抜けないように葉序と呼ばれる植物の葉の配列に着目する。

葉のつき方は、植物によって様々であるが、一定の規則性をもって茎に対して配列している種があり、この配列様式のことを葉序といいます。



[3/8葉序]  
茎を軸にして135°ずつ回転させながら葉をつけていくと、3周して8枚の葉が重ならずに日光を受けることができる。



植物が日光・水・二酸化炭素によって光合成をおこない成長するように、高架の柱を通して各店舗に配給される電気、ガス、水道・地上からの視線・ここに訪れる人々によって活性化していく。

